



ツアーコード JKL108

ビーチな休日 & 常夏・自然リラックス

5泊6日スパ、世界遺産「マラッカ」市街ツアー&KL、プーケット

ツアーの見所

- ユネスコ指定世界遺産、歴史的市街「マラッカ」ツアー
- クアラルンプール、4～5つ星ホテルに1泊
- マラッカ、マレーシアのNo.1エコリゾートに2泊
- プーケット（ビーチパラダイス）に2泊
- マレーシアの世界的に有名な「バトゥケイブ」とヒンズー教を知る
- スランゴール錫工場（ジュエリーの複雑な手作業を学ぶ）
- ナイトサファリ（イノシシやジャコウネコ様々な野生の動物を見る）
- ネイティブサバイバルスキル（Dパラダイスでネイティブサラワク、サバのスキルを学ぶ）
- ナイトマーケット（夕暮れのマーケットでいつもと違う経験と雰囲気味わう）
- リバークルーズ（マラッカ川をクルーズしながら歴史の足跡を感じる）
- 先住民族の村を訪問（彼らの文化を学ぶ）

諸条件

最少人数 : 2人

予約 : 7日前

お支払い : 予約時に一括支払い

レート(お一人様) : USD 988.00

有効期間 : このスペシャル企画は 2010年10月まで

メモ : 気象、交通状況で以下の旅程がやむなく変更される可能性があります、ご了承ください

atsuyo@d-paradise.com.my

旅程みどころ

- 日本語の話せるツアーガイドがあなたをクアラルンプール国際空港でお出迎え
- クアラルンプール、黄金の像で有名な‘バトゥケイブ’へ。長さ400m、高さ100mの石灰石の洞窟。272段の階段を登って崇高で壮大なヒンズー教の洞窟寺院をご覧ください。洞窟の入り口には42.7m世界一の高さの黄金のムルガン神像があなたを待っています
http://en.wikipedia.org/wiki/Batu_Caves
- ロイヤルスランゴール錫工場へ。錫製品の工程、宝石の作成過程や手技を見学。ギネスブックに載っている世界一の錫製ビールジョッキと記念撮影！！<http://visitorcentre.royalselangor.com/vc/>
- マレーシアNO1エコリゾートに宿泊。www.d-paradise.com.my
- 2時間トラディショナルスパ、フェイシャルマッサージ。www.d-paradise.com.my

ユネスコ世界遺産 マラッカ市街ツアー、チャイニーズヒル、1710年建築のセントピーター教など・http://www.d-paradise.com.my/jpn/stayanight_excursion.php

- 先住民の村を訪問、彼らの文化や習慣、サバイバルスキルを体験

http://www.d-paradise.com.my/jpn/stayanight_excursion.php

ナイトサファリツアー近くの農園と森林へ、野生のイノシシやジャコウネコ、オオコウモリ様々な動物を見ることができます。http://www.d-paradise.com.my/jpn/stayanight_excursion.php

- ナイトマーケット、伝統的な村の家々、工芸品レッスン、ゴムの樹液採取レッスンなど・・・

atsuyo@d-paradise.com.my



1日目 クアラルンプール国際空港～クアラルンプール (夕食)

クアラルンプール国際空港には経験豊富でフレンドリーなツアーガイドがあなたを到着ロビーでお出迎えます。そして専用車でクアラルンプールの市内観光へ。

クアラルンプールの街はクラン川とゴンバック川が合流した場所に造られました。この活気溢れる街を作っているのは古い町並みと近代的なビル群の融合です。

ハンドクラフトセンター、ジャメモスクを訪れ、チャイナ街、議事堂を車は通り、王宮で写真撮影。鉄道駅、スルタンアブドゥルサマッドビル、国家指摘記念物で歴史と文化の旅を・・・そしてクアラルンプールの郊外ではそしてクアラルンプールの郊外では自然と伝統の数々を体験していただけます。各国の大使館の並ぶ大使館通りを過ぎ、「ロイヤルスランゴール錫工場」を訪れます。マレーシアの田舎の町並みを車窓で楽しみながら「バティック工房」へ。マレーシアの素敵な模様の布地がどのように作られているかを見学できます。

“光の街”で知られるクアラルンプールの夕日を見た後、最古のヒンドゥ寺院“スリ・マハマリアマン寺院”へ。屋台の立ち並ぶチャイナ街への短い散策はまた違った顔のクアラルンプール、バーゲンスキルを試してみてもは？そして夕食はマレーシア料理のブッフスタイルをお楽しみください。

マレーシアの伝統ダンスショーを夕食と共に。

2日目 プトラジャヤ～マラッカ～Dパラダイス(朝・夕食)

朝食後専用の車は9AMにマレーシアの“インテリジェントガーデンシティ”「プトラジャヤ」へ・・・

ツアーの見所は「プトラモスク」別名ピンクモスク、首相官邸（外部のみ）首相府(外部のみ) ウェットランド公園（写真撮影）、植物園（入場料別）へ。

（首相官邸はドレスコードとセキュリティチェックがありますのでカジュアルすぎる服装はお避けください。）

プトラジャヤの敷地は4931ヘクタール、首都クアラルンプールから北へ25km、クアラルンプール国際空港から20km南にあります。

プトラジャヤはマレーシア連邦政府の新しい行政のセンターです。マレーシアの近代都市計画のこの街はプトラジャヤマークスの中にマルチメディアスーパーコリドー（MSC）に位置します。洗練された情報網ベースがマルチメディア技術にある都市のように設定されています

マレーシア初のインテリジャンスガーデンシティはモデル都市として今後重要な開発鍵を握ることでしょう。国の神経中枢として生ける理想的な場所は仕事、スポーツ、生活とレクリエーション活動になるでしょう。

プトラジャヤの約40%は自然の緑が溢れる場所で、植物園は大きな水域と沼地によってなっています。都市の5つの水域は水路を形成しながら北で合流します。

建設上、このプトラジャヤは現代の特別な都市になるでしょう、最も繊細に詳細に計画されているこの知的な街は進歩的な機能を高めることでしょう。

プトラジャヤは居住者のために快適で上質のライフスタイルを約束します。豪勢な青葉、植物園、および公園は大きい水域と沼沢地によって充実させられる風景の向こう側に広げられます。住宅地域は理想的な「住民の環境」に計画されて、統合される商業の中核と公共のアメニティーによって支持されます。

プトラジャヤは電子管理センターでマルチメディア技術を使うことでしょう。公衆との各部局間のコミュニケーションと相互作用が電子とマルチメディアチャンネルで行われるでしょう。プトラジャヤと姉妹都市、サイバージャヤの開発は国際的な場にMSCを競争的に置くことになるでしょう。

ランチの後はマラッカ市街観光へ・・・

2008年7月に世界遺産に指定された「歴史的な街」マラッカの市街観光へ。遺跡や建物からはマラッカのかつての数々の征服者や勝利者の足跡を見ることができ、又歴史と新しい町並みが尊重しながら融合しているエキゾチックな街を楽しんで頂けます。まずは東南アジア最古の現在も使われているセント・ピーター教会（1710ー）を訪れます。そして車はチャイナ通り、チャイニーズ丘にある中国人墓地を通り、山すそのかつての王の泉を訪れポルトガル居留地へ・・・マラッカのシンボル「サンチャゴ砦」とセントポールの丘にある「セント・ポール教会史跡」教会内には17世紀当時の墓石が並んでいます。マラッカの青い空にひととき目立つサーモンピンク、赤色の建物は異国情緒たっぷりの「赤の広場」へ。現在マラッカ歴史博物館、政府事務所になっている「スタダイス」、その横にはオランダ建設の代表作「クライストチャーチ。教会前にはトライショー（人力自転車）の華やかな色合いがよりいっそう雰囲気をかもし出しています・・・**スパイシーデビルカレーや他のさまざまなポルトガル料理**の前にぜひチェックしてみてください。次は「チェンフーテン寺院」（青雲亭）へ、この寺院の屋根の上には色とりどりの七宝焼きの人形が並んでおり、道教・仏教・儒教の教えを見ることがのできる珍しい3つの宗教が混合しているお寺です。そしてマラッカのメインストリート「ジョーカー通り」へ。通りの両側は賑やかなアンティークショップ、レストラン、カフェが立ち並び通りの終点ではマラッカ川のクルージング発着点になっています。

Dパラダイスはアローガジャ地区にあり空港からのハイウェイ沿いの車窓ではヤシ油の大きな農園の緑濃い美しい椰子の木々をご覧ください。Dパラダイスは168エーカーの果樹園と原住民のビレッジがあり、800種類以上の果物や花、野菜などを探索できます。又セルフバギーでパーク内を散策、9キロのパッションフルーツの木々の日陰が南国日差しから心地よい散歩道へとあなたを誘います。パーク内では鹿、ダチョウ、オーストラリア最大の甲殻類「ヤシガニ」やうずらにも出会えるでしょう・・・夜はナイトサファリツアーで、珍しいジャングルに生息する生き物たちに出会える冒険をお楽しみください

3日目 プトラジャヤ～マラッカ～Dパラダイス (朝・昼・夕食)

***ジャックフルーツの木の下で朝食を食べたことが???**

朝の爽やかな澄んだ空気の中、果樹園での朝食をお楽しみください、このマラッカでしか味わえない貴重な体験をお楽しみください！

朝食後、Dパラダイス原住民の村を自転車で訪ね彼らのライフスタイルや**伝統的なコーショップでコーヒーブレイク**はいかが？

Dパラダイスからの車窓ではラッキーならバッファローの危険な車をよけて歩いているグループに出会うことでしょう、もし会えなくても道端のいたるところで食事をしている彼らに会えるでしょう。

Are you Ready???ジャングルハンティングツアー！！・・・ジャングルのサバイバルスキルを習ってみよう！

昼食はジャングルの中で原住民の人々と一緒に・・・彼らの日常生活やクッキングスタイルを体験してみよう！床にすわって楽しむオールドスタイルのお料理はまた格別！！

夕食はプライベートカンポンハウスのプールサイドで。バナナで作ったキャンドルと共に、トレーニングされた執事が夕食をサーブします。ロマンチックな夕食をお楽しみください。

4日目 Dパラダイス～プーケット(朝・昼食)

*鹿と一緒に朝食を・・・

朝の澄んだ空気のパーク内、鹿やヤギのBGMで頂く朝食は日常とはかけ離れた魅力いっぱい！！Dパラダイス原住民の村を自転車で訪ね彼らのライフスタイルや伝統的なコーショップでコーヒブレイクはいかが？

Dパラダイスからの車窓ではラッキーならバッファローの危険な車をよけて歩いているグループに出会うことでしょう、もし会えなくても道端のいたるところで食事をしている彼らに会えるでしょうルンブ

午後～チェックアウト、Dパラダイスからクアラール国際空港へ、プーケットへ。

国際空港に到着、空港代理人がパスポート、書類を移民局に申請します。

お待ち頂く間、プライベート到着ラウンジでフット、バックマッサージを受けていただけます。

プーケット島のホテルにチェックイン、自由行動&リラックス・・・

夕食の前に川岸での1時間の全身マッサージをお楽しみください。

5日目 Dパラダイス～プーケット (朝食)

素晴らしく快晴の朝8:30、ミニバンがお迎えにあがります。

プーケットの歴史に関連ある異国情緒たっぷりのオールドタウンと“Chalong 寺院”へ。

でもまずは海辺の島、”パトンビーチ” “カロンビーチ” “カタビーチ”へ。

“パトンビーチ”の昼と夜の顔はちがいが、夜は大勢の人がパーティで盛り上がります。

パトン・ビーチは確かに魅力的な場所ですが、丘から見た“カロン”は波寄せる並みのサウンドのように豪華で明確です！

実際、ミニバン3つのビーチ (Sam Haad) で止まるとき最初に目に飛び込んでくるのは“カタ”と“カロン”ビーチのある“カタノイビーチ”です。陽気な雰囲気はこの場所は強い日差しで朝の9:15でも帽子と日焼け止めが必要です！

プーケットで最も写真で有名な場所は“Phromthep Cape”アンダマン海に突き出る半島で風が強く見所はたくさんあります。

様々な種類の木や石でできた象のコレクションは創造神“Brahma 神”と神殿を囲んでいて島の南には灯台がほかの島々も見ていただけます。

ここから私たちはどれくらいプーケットは緑に囲まれているか・・・海の明るいターコイズ色に対して眺めてみてください！きっと多くの人々がここを好んで訪れる理由が解ることでしょう！

冷たいココナッツドリンクを味わった後“Chalong 寺院”へ。この仏教寺院はプーケット最大で魅惑的な歴史の場所でもあります。人々はプーケットの魂であると・・・そしてその答えを知ることができます。この寺院は線香に火を灯した人々で溢れています。寺院の壁と内部の色の組み合わせは驚異的です。次は“Wang Thalang 真珠”と宝石店ではプーケットの錫工業ブームの後真珠の養殖を導入した歴史や、さまざまなタイプのサイズの真珠があることを学ぶところです、又20分の歴史とどのように養殖するかの映画を見ます。プーケットの保護された東海岸と沿岸に近い島で真珠は作られます。

その真珠で素敵な宝石ができるわけです・・・

正午前プーケットタウンに戻る前に天然のジュースを楽しむために寄り道し、ツアーの終点には魅力のあるプーケットオールドタウンに立ち寄ります。100年以上前、プーケットは多くの外国から影響を受けました。“シノ・ポルトギース”（中国ーポルトガル）はオールドタウンの古い家の呼び名です。

さあ5時間のツアーでたくさんの知識を受け取れたでしょうか??

私たちはたくさんのごことを今日1日で学んだと思います!!ではホテルへ戻りましょう・・・

6日目 プーケット (朝食)

小鳥のさえずりで目覚めたらホテルで朝食をお楽しみください・・・

フリー&リラックスタイム～プーケットでは観光やアクティビティがたくさん!またプーケットは大きな構成と文化で書かれた刺激的な外国とローカル、現代と古代の、個性的な、そして神秘的な混合物の歴史です。もし島の文化をもっと詳しく知りたくなったらミニバンツアーで歴史散策も半日楽しんでいただけます。

長い通りのブティックを自由に散策、お土産をチョイス・・・

ツアーの最後はフレンドリーなツアーガイドが「国際空港」でお帰りの搭乗手続きをお手伝いします。

マラッカ（マレーシア）とプーケットの忘れがたい思い出と共に帰路へ・・・